
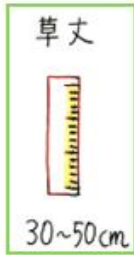


お花の栽培シリーズ「ディモルフオセカ」

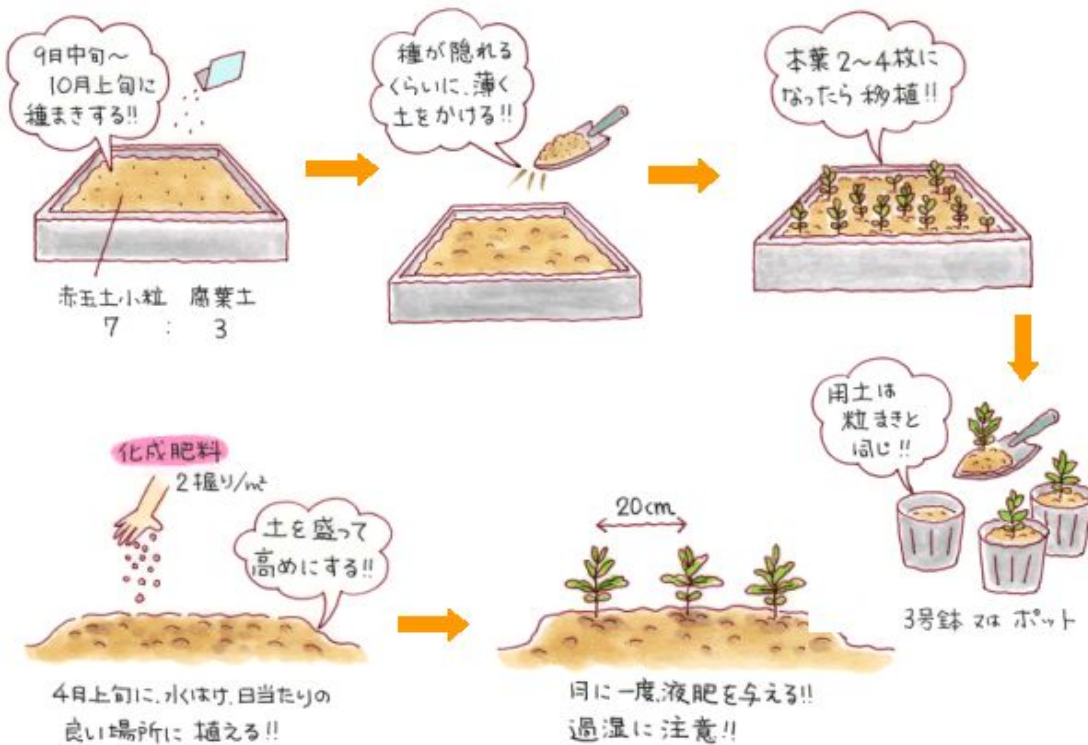
2010年10月	神無月(かんなづき)・神去月(かみさりつき)・時雨月(しぐれづき)・良月(りょうげつ)・小春(しょうしゅん)	●秋まき草花が育ち、根を伸ばす時期です
<p>●山では、美しい紅葉が見られ、初雪の知らせも聞かれます。</p> <p>●そろそろ防寒の準備が必要になってきます。</p>		
庭木の作業	<p>・10月は、各地で植木市が開かれる時期ですが、木の植え替え時期としては適当ではありません。常緑樹には少し遅く、落葉樹には早すぎるためです。ですが、ツツジ類やイヌツゲ、アベリアなどの株物は、厳寒期と成長期をのぞいていつでも可能です。</p> <p>・茂りすぎた大きな木では、台風前に枝を間引きして風あたりを少なくします。春に花の咲く花木類では、花芽のついた枝をあまり切らないようにしましょう。</p>	
草花の作業	<p>・春咲き球根の植えつけ</p> <p>・夏咲き球根を掘りあげて、保管する。</p>	

今月の誕生花	キンモクセイ、コスモス、マリーゴールド、シオン	
今月の花	<p>マツムシソウ(スカビオサ) 花言葉/私はすべてを失った、不幸な愛情</p>	 <p>マツムシソウは、秋草の中でも特に美しいといわれています。</p> <p>日本では、紫色は高貴な色とされています。しかし、ヨーロッパでは悲しみを象徴する色とされています。そのため、暗い紫色のこの花は死んだ人を見送るような花言葉になったと思われる。</p> <p>この花は、小花がたくさん集まっていますが、若干さびしげな感じがします。花のあとに実をつけますが、無数の実がまるで針さしの針坊主のように集まり、ユニークな姿になります。</p> <p>その形が、昔、諸国の寺社を巡業する巡礼が持っていたマツムシという小さな鐘に似ているので、マツムシソウといわれています。</p> <p>花壇で作りやすいのは、初夏から夏にかけて咲くセイヨウマツムシソウ。こちらは、淡青紫や白などの園芸品種があり、多年草なので、毎年花壇に咲く花を楽しく眺めることができます。種子は秋に撒き、翌年の4月に植えかえます。</p> <p>原産地は日本。マツムシソウ科マツムシソウ(スカビオサ)属の越年草。草丈は30~80cm。開花時期は7~10月。最盛期は7~9月。葉の形状は、羽状に分裂、花色は青・紫(淡紫、ピンク、白)。英名ピンクシオンフラワー(Pincushion flower)。別名 スカビオサ、松虫草(漢字表記)。花持ちは一週間程度。</p> <p>紫は悲しみを表します。外国の方には、この花を含め紫色の花を贈るのは避けた方が無難かもしれません。</p>



元気を与えてくれる 鮮やかな黄色や橙色のこの花は、南アフリカ原産です。乾燥気味を好み、加湿になると病気にかかりやすくなるので 注意します。たいへん太陽を好み、直射日光のもとでしか 花は咲きません。半日以上は 日のあたる場所で、たっぷり太陽の光を 浴びさせて育てます。一般に栽培されているのは一年草の品種です。一年草は 秋に種をまき、春に植えます。花壇に植える場合、水はけをよくするために、土をもって高めに植えつけるとよいでしょう。多年草は、1~2年に1度、11月に株分けをします。株がかなり大きくなったものは、カッターや包丁を使うようにします。寒さにはやや弱いので、11月~3月は 室内で育てます。室内で管理する時には、加湿にならないように風通しをよくし、水やりを控えます。

●種まきからの育て方



●年間スケジュール

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
生育状況	花期											
場所・設置場	屋内の日当たりのよい場所						屋外の日当たりのよい場所				屋内の日当たりのよい場所	
水やり	表土が乾いて1～2日たったら与える		表土が乾いたら与える(1～2日1回)				※過湿になると病害にかかりやすいので注意			表土が乾いて1～2日たったら与える		
肥料	元肥 月1回濃肥を与える											
気病	アブラムシやヨウトウムシの防除に月1～2回薬剤を散布する ポトリチス病に注意をする											
作業	植えつけ				種まき				多年草は1～2年1回植え替えと株分けをする			